

親鸞さまの

【本文】

自力聖道じりきしやうどう ぼだいしんの菩提心

こころもことばもおよばれず

じやうもつてん

常没流転じやうもつてんの凡愚ぼんぐは

いかでか発起ほつきせしむべき

【意識】

自らに帰依し自らの力で仏様に成ろうとする心(菩提心)を持つことは、

心や言葉で思い計ることができないほど難しい限りです。

生まれては死に、生まれては死ぬ。常に流転の繰り返しの中で、愚かしい人は

どうして菩提心を起す事ができるでしょうか(いや、到底起こしえませんが)。

【私の味わい】

「キジも鳴かずば」という昔話があります。ある所に、貧しい中で父と幼き娘が二人暮らしをしていました。梅雨の頃、重い病に臥せった娘さんは、かつて食べた小豆まんまを思い浮かべて父にせがみます。赤貧洗うがごとくの家には、小豆はおろかお米さえ満足にありません。そこで、父は一度だけ盗みを働き、娘に食べさせました。その甲斐あって快方に向かいます。喜んだのもつかの間、ある日父は盗みを働いたかどで連れて行かれ帰ってきませんでした。娘さんが、あのご馳走を食べた嬉しさを、手まりをつきながら歌っていたのを近隣が聞いたことで露見したのでした。帰って来ない父、それは自分のした事の結末であったことに苦しみ泣き続けた娘さんは、それ以来姿を見せなくなりました。うです。ある時、獵師がキジを撃った所、そこにかの娘さんが鳥を抱えて立っていました。そして、「おまえも鳴かずば撃たれまい」と言い、ぶつりと姿を消した、とのお話。良かれと思ってやったことが裏目に出る、嬉しいと思つて口に出したことが自らを苦しめる。人の行いは、どのような行く末をもたらすのか、それは当人にも分からないことです。しかし、人間の行い(業)の中で、尊い行いがあると親鸞様は教えて下さいます。「ただ念仏のみぞまこと」と。お念仏という行いは、必ず極楽浄土という行く末に続いています。どのような結末の人生か分からないのではなく、阿弥陀様のお陰によって必ず極楽で成仏させて頂くのが私たちの恵まれた結末です。取るに足らないことを考え、口に出し、手間をかける暇があったら、まずはお念仏でありましょう。(悠水)